

進路先をイメージしてみましょう（平川・大鰐編②）

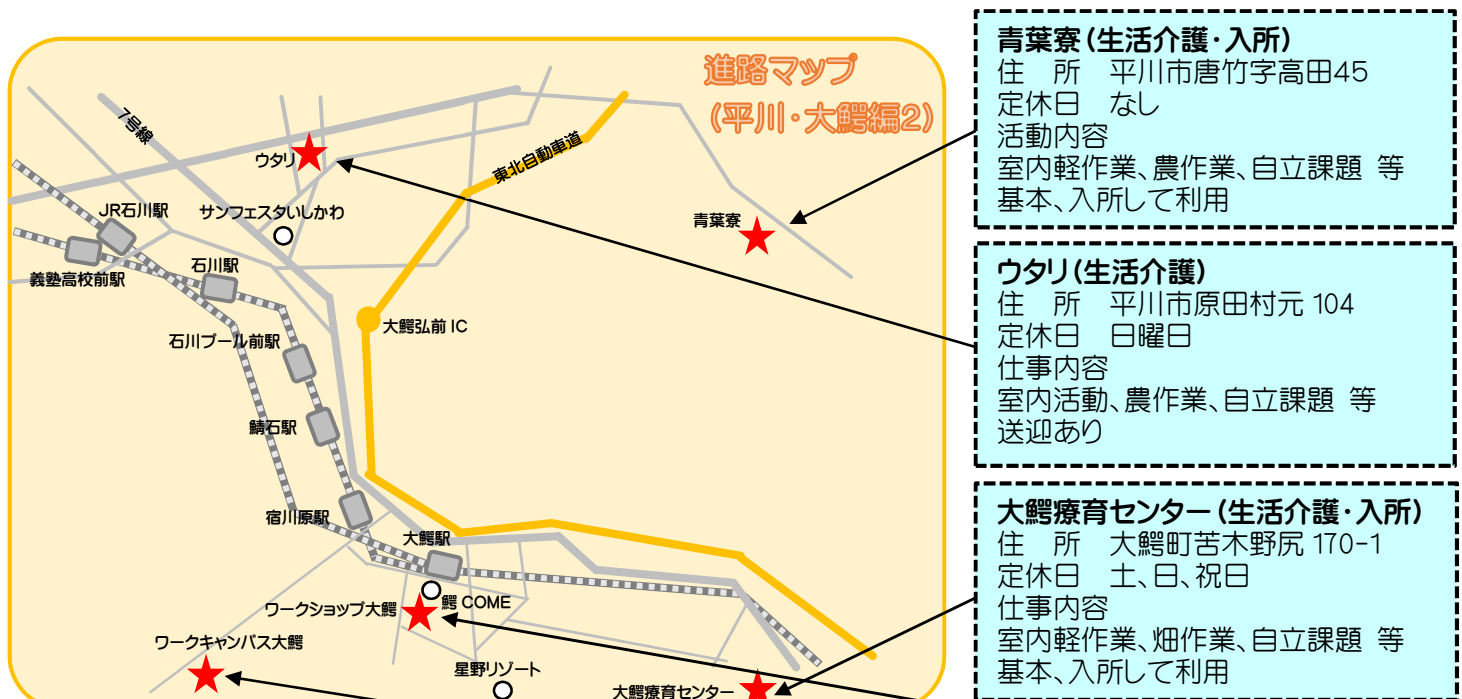
本校卒業生の進路先を中心に紹介していますが、作業内容については、紙面の関係で「椎茸の収穫作業」とか「フルーツキャップ折り」「ペットボトルの回収と洗浄、選別」等と具体的には書いていません。

ホームページのある施設であれば、より具体的なイメージが持てると思います。是非、検索してみてください！

進路は誰が決めるの？ ⇒ もちろん本人です！

以前の進路だよりにも掲載しましたが、進路先を決めるのは・・・もちろん“本人”ですね。親でも学校でもありません。自分の将来は自分で決めるということです。障がいの軽い重いにかかわらず“自己選択・決定”が長続きの秘訣です。

高等部では、現場実習や施設見学、進路学習、キャリアの授業等を通じて、自分の適性や夢に合わせた進路を選択できるようにしています。時々、本人が希望していない進路先でも、家族が気に入ってしまい、そこに決めてしまうことがあります。卒業後、休みがちになり辞めてしまう、体調を崩して入院する等といった卒業生もいました。



進路を決める際のポイント

進路（施設）の決定にあたって、家族は何を考えればよいのでしょうか。

卒業後、自宅から通う場合、休日を含め「家族が支え続けられるか」「家

庭生活に無理は出ないか」などを一つずつ洗い出してみましょう。家族に無理がかかる進路先は避けましょう。

- たとえば
- 【支援】 必要な支援に対応してくれる？… ⇔ 実習時に確認できますし、学校でも確認します。
 - 【送迎】 送迎時刻に合わせて、家族が在宅できるか？ 送迎ポイントまでの送迎ができるか？…
 - 【経費】 施設を利用する際に係る経費を負担できるか？ 工賃で賄えるのか？ 等…
 - 【休日】 一人で過ごせるのか？ 家族が常に一緒にいられる？ 銀行、役場、買い物に連れて行く？…

卒業後は「放課後等デイサービス」は使えません…。成人期は「居宅介護」「行動援助」といったサービスで、外出や様々な支援を受けることとなりますが、希望どおりには利用できない（順番待ち）状況だとの話も聞こえています。

過度な負担無く、本人も家族も快適に過ごすためにどうすればよいのか、少しずつ考え、準備していきましょう。

